

日本道德教育学会 第92回大会

日時： 平成30（2018）年11月4日（日）

於： 金沢工業大学

学校現場における道德教育改革への対応と意識（2） —「特別の教科 道德」全国調査の自由記述分析を中心として—

- 矢作信行（武庫川女子大学大学院生）
- 齋藤道子（武庫川女子大学大学院生）
- 押谷由夫（武庫川女子大学大学院）
- 木崎ちのぶ（武庫川女子大学大学院生）
- 谷山優子（武庫川女子大学大学院生）

本研究全体の目的と本発表の目的

- ▶ 本研究は、小学校で全面実施に入る前の2018年3月現在において、学校現場の状況を把握すべく、全国調査を行い、学校現場の教師の意識と実際の実践等について把握する。そして、その結果を基に、学校現場の教職員がより主体的、意欲的に道徳教育改善・充実に取り組んでいただけるようにするための提案を行うことを目的とする。
- ▶ 本発表においては、以下の要領で行ったアンケートの中の自由記述の部分を取り上げ、その内容を分析し、学校現場の教員の率直な意見や思いについて明らかにしようとするものである。

調査の方法

- ▶ 調査対象校の選定は『全国学校総覧 2017年度』（原書房）より、全国47都道府県の全部の小学校・中学校から、およそ1割の学校を無作為に抽出し、アンケート用紙を送付するという方法を取った。
- ▶ 発送学校数は、3,336校。回収学校数は、981校。回収率は、29,4%である。
- ▶ 自由記述があったのは、合計（1～4）で480件である。
- ▶ 自由記述欄には、1 ぜひ伝えたいこと（165件） 2 要望（120件）
3 意見（98件） 4 その他（97件）
を設けている。

発表の方法

▶ 矢作信行

- 1 ぜひ伝えたいこと
- 2 要望

に書かれている内容を分析する。

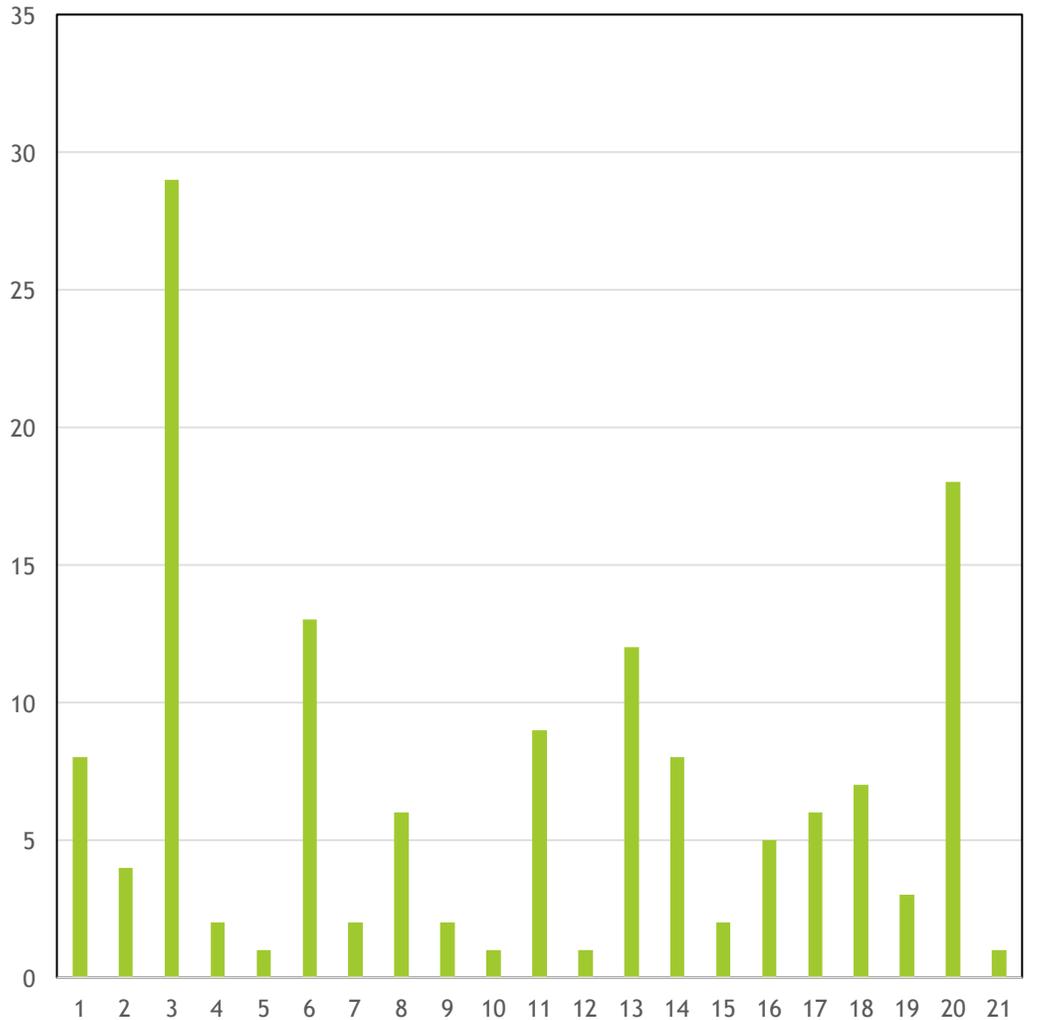
▶ 齋藤道子

- 3 意見
- 4 その他

に書かれてある内容を分析する。

2 ぜひ伝えたいこと

・ 道徳の教科化について



1 意味深いと思う・効果(学力・生活面など)があると思う

2 日常生活にも生かしていくべき

3 評価が大変そう・課題がある・不安がある

4 私学なので独自の教材を使用、指導を行っている

5 中・高の道徳教育にも触れないといけない

6 具体的な事例・指導法や研修などがもっと欲しい

7 文科省は方針のみを示し、あとは学校に任せてほしい

8 今まで行ってきた授業を充実させていくことが重要

9 社会で求められている道徳科になりうるのか疑問

10 年間の授業時数が確保されることに期待する

11 教材を精選して欲しい・教材選定に課題がある

12 問題解決的な学習を取り入れると主体的に取り組む発言をする生徒が増えた

13 教員の負担が大きい

14 まだ自分事になっていない教員がいる

15 教材分析に関心をもってほしい

16 研究授業等も増えるのではないかな

17 教師の価値観や心構えが子どもの成長に影響する

18 教科化でどうしたらよいか分からず不安がつくる

19 道徳授業がうまくできず劣等感・悩みをもつ教員もいる

20 教材・授業などの研究時間が不足している

21 教科化にする必要があったのか疑問がある

関心度の高いもの 評価に関するもの（3）

- ▶ 評価に関することが一番多かった。不安がある、大変そうであるという回答が一番多くみられた。これは、全面実施を控えこれまでなかった評価に対する不安が伺われる。

研修時間（20）

- ▶ 研修時間・教材研究の時間が不足している。
- ▶ これは、実質的に困っている本音であると言える。
- ▶ 【時間を生み出す様々な工夫】

具体的な事例がほしい（6）

- ▶ 具体的な事例がほしいというのは、評価のイメージがつかめていないことが原因かと思われる。特におおくりのイメージがつかめていないように考えられる。

《道徳科における評価の在り方》

【道徳科における評価の基本的な考え方】

- 児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側からみれば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料。
- 道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、
 - ・ 数値による評価ではなく、記述式とすること、
 - ・ 個々の内容項目ごとではなく、大くりなまとまりを踏まえた評価とすること、
 - ・ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（※）として行うこと、
 - ・ 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること、
 - ・ 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ることが求められる。

※個人内評価・・・児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)【概要】

(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

＜道徳科の指導方法＞

- 単なる話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく道徳科の質的転換を図るためには、学校や児童生徒の実態に応じて、問題解決的な学習など質の高い多様な指導方法を展開することが必要。

＜道徳科における評価の在り方＞

【道徳科における評価の基本的な考え方】

- 児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側からみれば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料。
- 道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、
 - ・ 数値による評価ではなく、記述式とすること、
 - ・ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること、
 - ・ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価(※)として行うこと、
 - ・ 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること、
 - ・ 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ることが求められる。

※個人内評価…児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

【道徳科の評価の方向性】

- 指導要録においては当面、一人一人の**児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子**について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、
 - ・ 他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**
(自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等)
 - ・ 多面的・多角的な思考の中で、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**
(読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等)**といった点に注目**して見取り、**特に顕著と認められる具体的な状況を記述**する、といった改善を図ることが妥当。
- 評価に当たっては、**児童生徒が一年間書きためた感想文をファイル**したり、1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変更を見取るのは難しいため、**年間35時間の授業という長い期間で見取ったりする**などの工夫が必要。
- 道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは**基本的な性格が異なる**ものであることから、**調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要**。

＜発達障害等のある児童生徒への必要な配慮＞

- 児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要。

＜条件整備＞

- 国や教育委員会等において、多様な指導方法の確立や評価の工夫・改善のために必要な条件を例示。

教員の負担が大きい（13）

- ▶ これは、現実的に何をすればよいかがよくつかめていない状況であったため、負担が多くなると決めつけてしまったようなイメージがあったのではないかと考える。
- ▶ 現実的には、授業に関してはこれまでとあまり変わらないように思う。
- ▶ 評価に関しても、授業記録の蓄積であるので、そんなに負担にならないように考える。
- ▶ 個人的な所見ですが、実際に通知表等への記述の終わった教員からは、はじめはとまどったが、いざ記入を始めたらそんなに大変ではなかったという声をたくさん聴いています。

教材の選定（11）

- ▶ 教材の選定に関しての意見がみられる。これまでの資料と教科書の関係が十分理解されていない状態であったので、教材の選定に関する不安が大きかったと感じる。

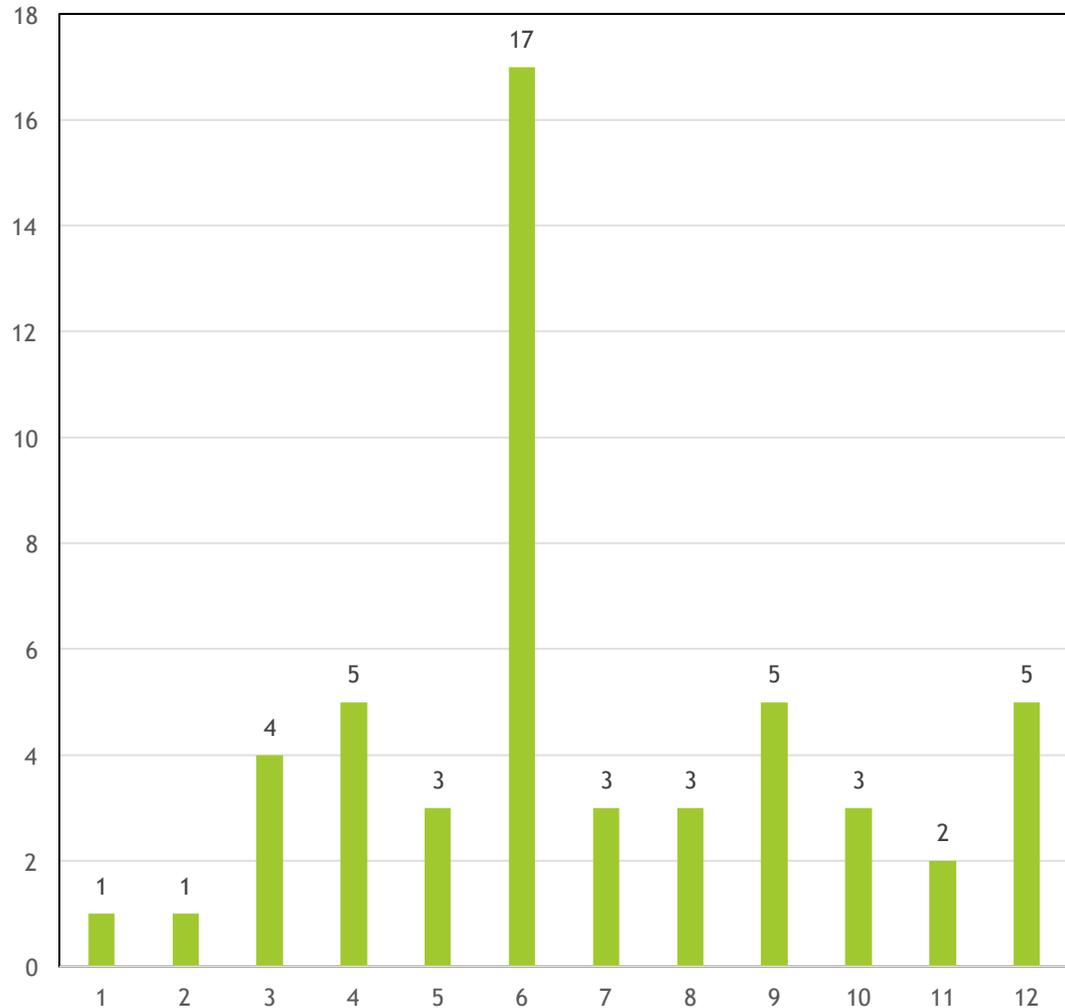
意味深い・効果あり（1）

- ▶ 「特別の教科 道徳」への期待感が伺える。教科として道徳が発足することに対しての期待感が伝わってくる。
- ▶ 道徳性の育成だけでなく、学力面、生活面の両方での効果への期待が伺える。

まだ自分ごとになっていない（14）

- ▶ この調査を実施した段階において、まだ自分ごととして捉えていないと考えている教員が多いことが伺える。現在は、小学校ではスタートし、中学校では来年度からということで小学校と中学校で温度差が見られると考えられる。

その他



1 成果があがりにくい

2 学会参加が出張扱いにならず参加しづらい

3 学級経営を充実させることが大切だ

4 家庭や社会との連携・周知が必要である

5 県教委や教育事務所も混乱しており、返答してもらえないことがある・指導主事もわかっていない・文科の説明と食い違いがある

6 道徳部会などの情報公開を行っている・何らかの取り組みを学校でやるようになった

7 いじめの改善に有効かという疑問が残る

8 道徳は楽しい・好きである

9 道徳の専門家・専門教員や専門機関(大学)が必要である

10 現場の実態をもっとみて、声を反映させてほしい

11 学校教育全体にわたって道徳教育は行われるべきだ

12 価値のおしつけにならないか心配

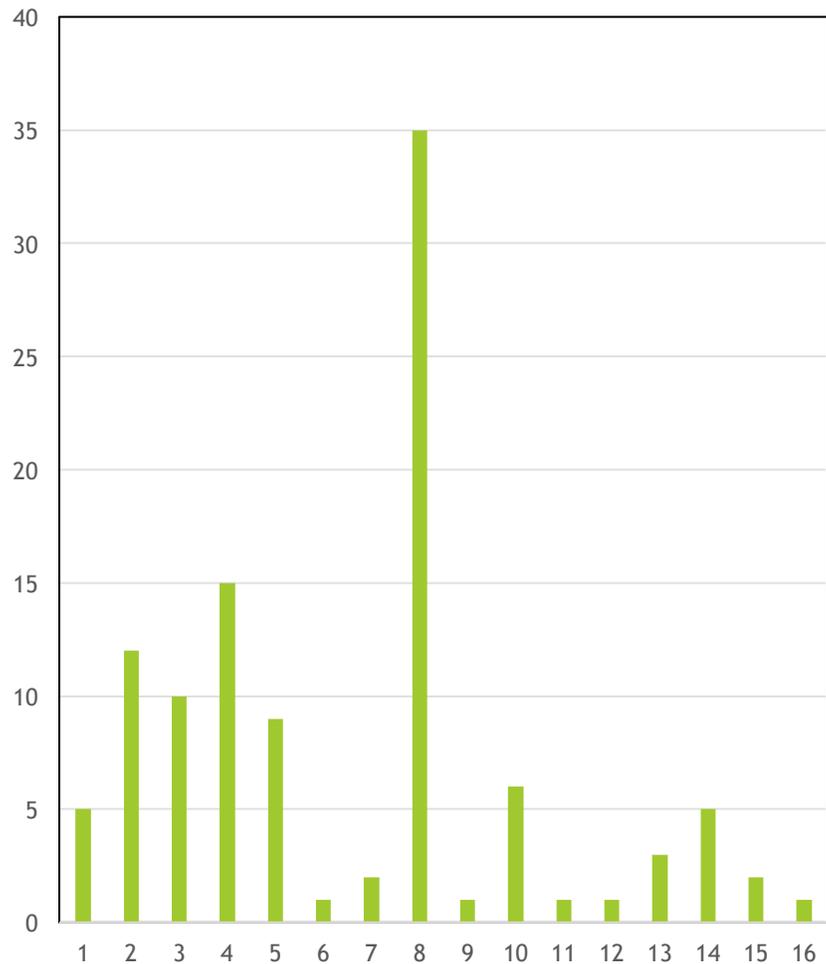
取り組みを始めた（6）

- ▶ 「特別の教科 道徳」を開始するにあたり何らかの準備を始めたことが伺える。好意的に捉えているか、否定的に捉えているかは十分読み取れないが、準備をしなければいけないという意識は明らかに高まったと言える。

道徳の専門機関が必要（9） 指導者サイドの見解が一致しない（5） 価値の押し付けにならないか（12）

- ▶ これらの意見を含め、全体的に不安を抱いていることが伺える。文科省、県教委、市教委とも言っていることは同じであるはずだが、受け止める側には違って伝わっている。
- ▶ 道徳の専門教員を組織するという考え方もあるが、学級経営を基盤にするとなかなか難しい。中学校では、ローテーション道徳の実践もみられるようになってきた。
- ▶ 価値の押し付けにならないかという意見は教材が教科書によって固定するからという意味あいであろうと考えられるが「特別な教科 道徳」の趣旨を考えれば、押し付けにはならない。指導の仕方によっては押し付けのようになってしまう可能性は否定できない。

要望



1 教員養成段階からの基本的指導を行ってほしい

2 研修会や勉強会の機会を増やしてほしい

3 どの教員でも指導できる具体的な指導法を作成・提示してほしい

4 教員の負担が少なくなるようにしてほしい

5 道徳科を通して臨むべき姿や指導方針、手引書等を具体的に示してほしい

6 検定教科書の準備が遅いのではやくしてほしい

7 教職大学院・インターンシップなどの教員が学ぶ機会を増やしてほしい

8 評価の在り方について詳細・具体的な説明をしてほしい

9 ICT活用の予算を計上してほしい

10 道徳の専門教師を養成してほしい

11 各校で工夫できるような予算をつけてほしい

12 特別支援の児童への配慮の許容を示してほしい

13 人員を増やしてほしい

14 家庭・保護者に周知させるためのツール(パンフ等)がほしい

15 私学の独自性を尊重してほしい

16 教科書以外の内容をふれることにも柔軟性をもたせてほしい

評価の在り方（8）

- ▶ 要望においても評価の在り方が一番の関心事であることが伺える。具体的にどのようにすればよいのか非常に不安があったことが伺える。多くの研修会等でワークショップや具体的な研修が行われてきているので、不安はかなり少なくなってきたと考えられる。
- ▶ 道徳の教科化について不安が多く出されているので、この不安が今後解消されるか追跡調査をしたい。

研修会の増（２） 教員の負担減（４）

道徳の専門教師（１１）

- ▶ 教員の研修や勤務に関わる内容についての意見は、道徳の教科化によって、今も忙しいのに、これ以上の負担増はなしにしてほしいという切実なる訴えあるように思う。
- ▶ 新しいことに取り組むのでどうしても負担がかかるのはいたし方無いにしてもできるだけ負担を少なくする方策をみんなで考えたい。よき実践例を紹介しあえるとよい。

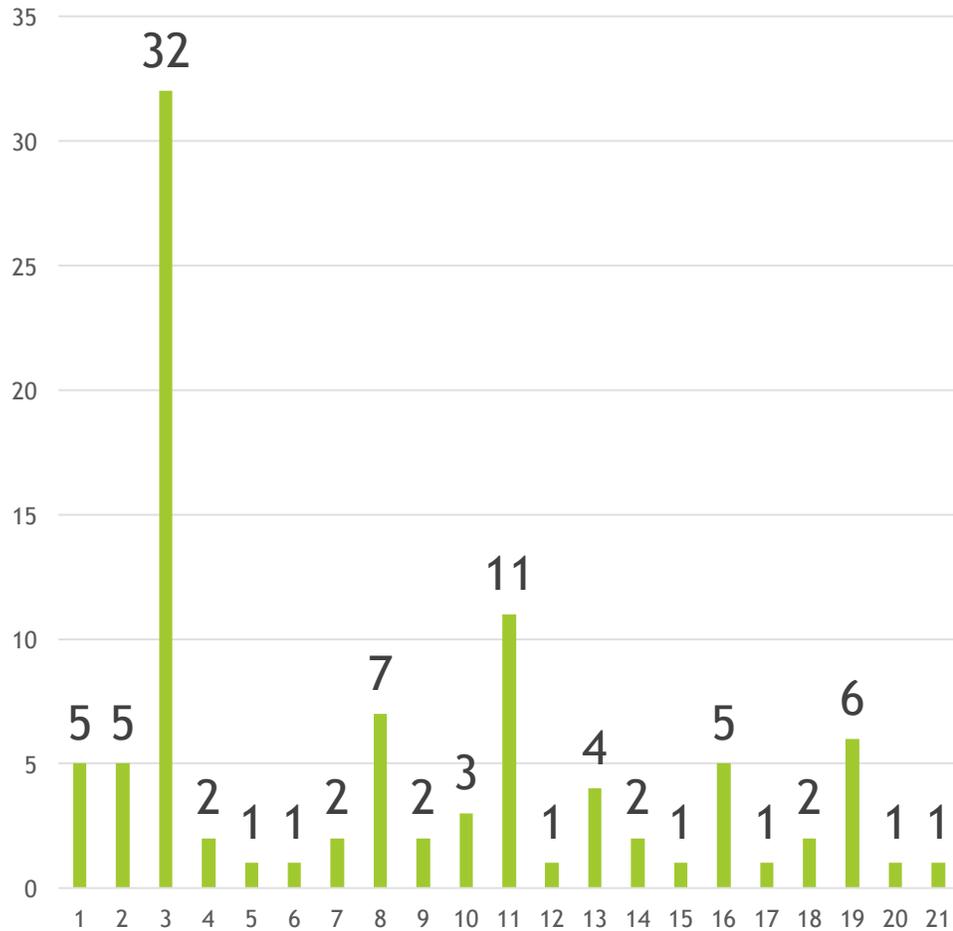
具体的な指導法の作成（3） 保護者用パンフレット等啓発（14）

- ▶ 現在、具体的な指導例が多く発表されている。今後も多く出てくることが予想されるのでそれらを参考にしていこう。
- ▶ 保護者への啓発は、文科省や県教委、市教委等の資料を参考にしていこう。また、道徳の授業参観を行っている学校も多くある。これらを活用して保護者や地域の理解を得ていこう。

ぜひ伝えたいこと、要望についての記述についてのまとめ

- ▶ 全体として評価に対しての不安が多いことが伺える。具体的な姿がイメージできていないことが一番の原因ではないかと考えられる。現在、小学校では全面実施しているのでこの動向も見ながら、進めることになると考えられる。
- ▶ 二つ目には道徳の教科化に期待をしている反面、教員への負担が増えるのではないかといった「伝えたいこと」や「要望」が多くみられた。スムーズ実施できることを願っています。
- ▶ 道徳の教科化によってどのように変わるのが十分理解できていないことによる不安も多くみられる。今後の実践で児童生徒も教師もそして保護者も楽しくなる道徳科の授業になれることを期待し、調査を続けたいと考えています。

3 意見



< 意見 >

1 教員研修を行う・増やしてほしい・工夫してほしい

2 文科省で専門家を集めて使える指導書を作成する・詳細な説明をするなど、あまりにも現場任せにしないでほしい

3 評価に課題があると思う・疑問点がある

4 教師の自由度が保たれるようにしてほしい

5 客観性のある調査などの分析をしてほしい

6 道徳の時間をもっと増やすべきである

7 道徳授業に課題があると思う・疑問点がある

8 道徳の教材に課題があると思う・疑問点がある

9 教員間にある道徳への温度差がある

10 教育課程・内容のスクラップ&ビルドのバランスを考えてほしい

11 教員の仕事量をもっと考慮してほしい

12 道徳科への移動が拙速すぎる・準備期間が短すぎる

13 今後、道徳教育の推進に向けて頑張っている

14 学習環境をもっと整えてほしい(予算の少ないところは大変)

15 理論よりも実践だと思う

16 家庭や地域との連携がうまくできるか不安・課題がある

17 私立校では公立校と異なる部分があることを踏まえる必要がある

18 教職課程で道徳教育をしっかり学んでほしい

19 道徳が何よりも大切な教科だと思う

20 経営プランを立てられる人が校長になってほしい

21 教員全体で共有すべき

評価に課題や疑問がある (32P) 項目3番

▶ 評価を実際に行う前の調査であるため、道徳科における評価に対して教員が不安に思ったり、疑問に思ったりしている実態が伺える。

← 小学校では、平成30年度から全面実施となり、この1学期に通知表に評価を記載した学校もある。事前に教育委員会や学校が、評価についての研修会を開いたり、また、学習指導要領に記されている「評価の視点」に基づく具体的な事例文等を示すこと等によって、概ね趣旨に沿った評価がなされた。

← しかし、実際に行ったことで、例えば、「通知表での短期評価と、指導要録での長期評価の記述の仕方」・「子どもの変容や成長を捉えての具体的な表現の仕方」といった点についての具体的な課題が見えてきた。

■ 今後、実施によって明らかとなった課題を整理し、各知の取組みの様子等についての情報収集を行い、具体的な改善を図っていく必要がある。

教員の仕事を考慮してほしい（11P） 項目11番

- ▶ 道徳科に直結するものではないが、教員の仕事量については、「働き方改革」において大いに改善する必要がある。以下のような現状がある。

（1）児童生徒が21世紀を生きる上で培うべき「資質・能力」が、児童生徒の発達を踏まえて系統的に整理されないまま学校現場に次々と持ち込まれている。

←英語教育・キャリア教育・がん教育・環境教育・福祉教育・人権教育・プログラミング教育等

（2）発達上・家庭上・健康上の課題・学校不適應等による児童生徒の増加と個別対応の増加。

←①特別支援に関わる児童生徒への対応 ②虐待・ネグレクト・未就学・家庭内暴力・学納金の未納・外国国籍・宗教等への対応 ③アレルギー・身体不自由・各種病気等への対応 ④外国語や宗教的な制限等への対応 ⑤人間関係・学習理解・家庭の方針・過度のストレス等による不登校児童生徒への対応 ⑥いじめ等の問題に対する対応

■学校で行なうべき教育内容の精選と、本来教員がすべき仕事の精選を行い、学校教育の質の向上を図る必要がある。

道徳の教材に課題や疑問がある（7P） 項目8番・3番

▶ 新学習指導要領における3つの柱

- ①何ができるようになるのか。 （資質・能力）
- ②そのために、何を学ぶのか。 （内容）
- ③それらをどのように学ぶのか。 （学び方）

「資質・能力の育成」
「主体的で、対話的で、深い学び」
「考え、議論する（対話する）道徳」

⇒上記の観点から授業づくりをしてみると・・・

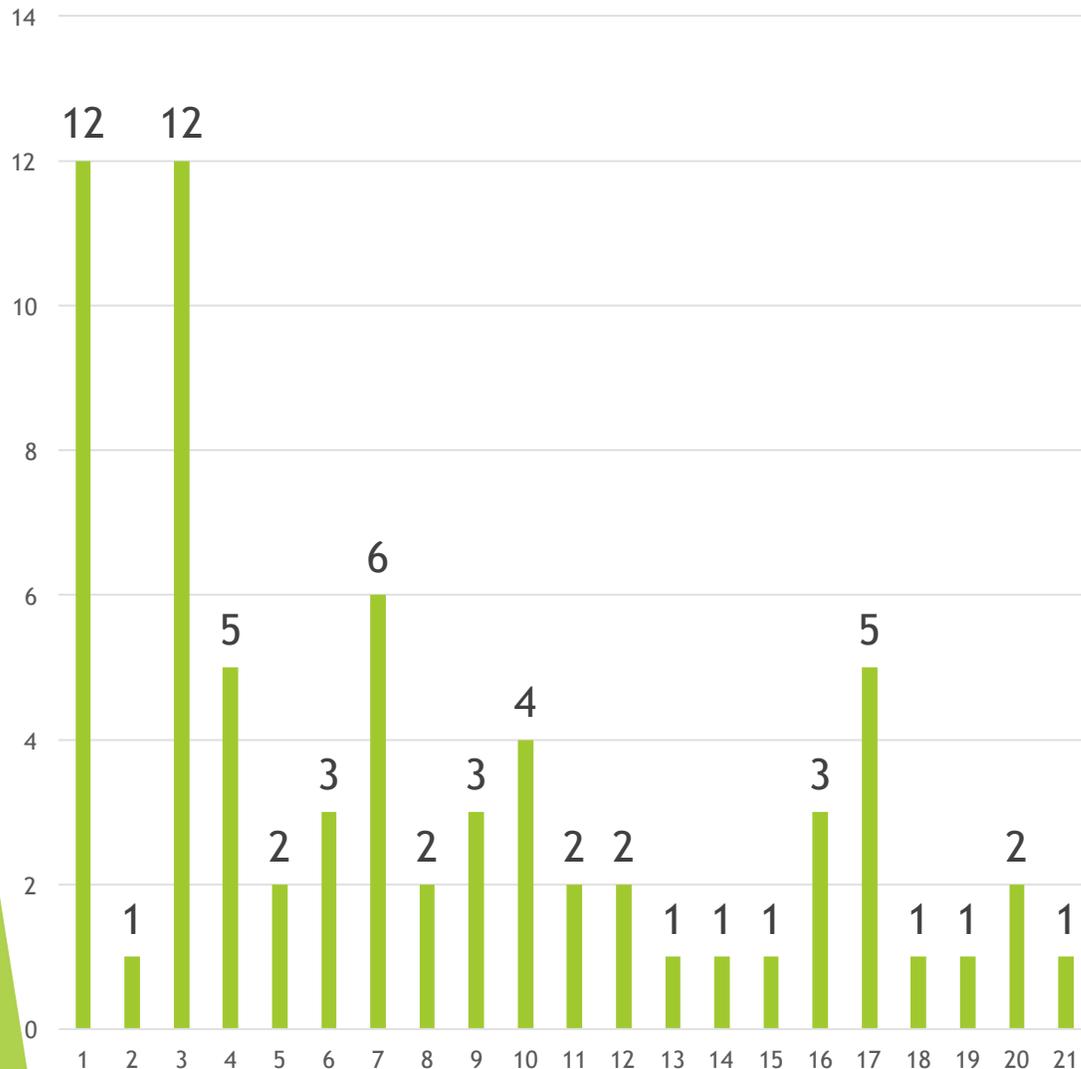
- (1) 道徳的価値の理解が、十分に深められない教材がある。
- (2) 「考え、議論させる」ことはできるが、道徳的価値の自覚を十分に深めるのが難しい教材がある。
- (3) 時代背景にずれがあり、児童生徒が共感や納得しがたい教材がある。
- (4) 従来の展開の仕方からなかなか離れられず、それに基づいて授業をしたときに十分に深められない教材がある。

■今後、各教科書会社においては現場からの情報を受けて、再度、新たな視点から見直しを行うとともに、地域教材や副読本等野活用も柔軟に効果的に活用していくようにする。

私立小・中学校における道徳科の取扱い 項目17番

- ▶ 「特別の教科 道徳」を今後私立学校において、どのように捉え実施するか。
 - ◆道徳科となる以前は、私学における道徳教育は、各学校の教育方針に基づいて宗教や、特定の理念に基づいて道徳教育が行われてきたが、「教科」となった以上は、独自性のある道徳教育をどのように進めるのかについて、明確にする必要があると思われる。
 - ◆アメリカや中国等では、伝統的に培われてきた宗教の理念に基づいて道徳教育が実施されてきたが、近年では、個人の価値観が多様化し、これまで多くの国民に共有されてきた理念が一般化しにくい状況がある。アメリカ等ではシチズンシップ教育等が実施されている。
- ※今後、日本においても、教科となった以上は、私学においても再度、道徳教育について見直しを図る必要がある。

その他の自由記述



その他

1 評価をすることに課題がある

2 いい学校がどんな学校なのか教えてほしい

3 力をあわせて頑張っていく・これから頑張っていく

4 時間がないことが悩みである

5 統一するものと、独自で作るものをもう少し分けてほしい

6 社会・家庭での道徳教育力の低下への危惧・課題がある

7 これから道徳科がどうなっていくのかが不安

8 研修を増やしてほしい

9 資料や教材の充実・教科書の内容が気になる

10 優れた道徳授業などがみたい・実践例がしりたい

11 道徳の教科化に制度的な意図がみえてしまう

12 学校の現状にあった道徳教育を行っていく必要がある

13 しっかりとシステム化するとより充実したものになるのでは

14 教員間での情報交換が必要

15 直線的な道徳授業を行動力に結びつける考え方が危険

16 教員の負担を考えてほしい・減らしてほしい

17 アンケート実施の時期・分量・内容などを考慮してほしい

18 道徳と学活を分けたような授業は現場にあわない

19 大人の道徳観を高める取り組みが必要

20 3 5時間やった効果や道徳の成果を数値化して現場に示してほしい

21 教員間の価値観の違いが授業の違いになるのでは

社会・家庭の道徳教育への危惧・課題（7P） 項目6番

▶ 社会の急速な変化に伴う道徳性育成上の課題

（1）価値観の多様化・人間として育むべき道徳性の確認と共有化 （世界道徳）

（2）人間本来がもつ道徳性をはぐくむ土壌の減少

（ICT化に伴うバーチャルな仮想世界・人間関係の希薄化・効率主義・個別空間の選択と所有による社や集団の一員としての所属に対する遮断・自然界に接する機会の減少等）

▶ 家庭の教育力の低下による道徳性育成上の課題

（1）核家族化による父母依存の増大

（条件付きの親子関係・親に嫌われない子になるという価値観・物質による愛情表現・さまざまな人間に触れる中で得る道徳的慣習の不伝授等）

（2）共働き家族で親と共に過ごす時間の減少による、親が知らない子供世界の形成

（ストレスの増大・自由時間の制限・決められた空間や時間の中で過ごすことによる行動の制限や主体性の制限・身体の状態に応じた体調の未調整・特定の子供と遊ぶコンピューターゲームと依存的な人間関係等）

しっかりとシステム化する発要がある 項目13・21番

- ▶ 他教科においては、児童生徒の発達を踏まえて、指導内容が系統的に示され、計画的に指導が行われているが、道徳科においては、評価を含めてまだ十分に体系化されていない部分がある。

⇒ したがって、今後は、以下の点において研究を深め、道徳性の発達に基づく指導の体系化を明確にしていく必要がある。

- (1) 道徳性の発達についての一般的な体系化
- (2) (1) を踏まえた指導方法の工夫と、内面的な発達からみた児童生徒の実態に対する見取りと評価の工夫改善
- (3) 内容項目に対する教師の理解
- (4) 各校の実態に基づく、新たな視点を踏まえたカリキュラム編成と改善

※今後は、教科としての道徳そのものについての研究を深め、専門的知見や実践事例に基づいて指導方法のシステム化を図る必要がある。それにより教員の指導力における格差も、ある程度軽減されることが期待される。

意見 その他 のまとめ

